

図書館担当者研修会



<見附小学校 野口典弘先生の講話>

<グループ討議>

12月1日（金）、情報館で図書館担当者研修会を行いました。市内のほとんどの学校から参加者がありました。また、津南町の学校からも3名参加していただきました。

前半は、子ども読書推進活動で全国表彰をされている見附小学校の実践を野口典弘先生からお話していただきました。伝統ある読書推進活動は、「持続可能なやり方」で多くのボランティアの方々に支えられながら進められていることが伝わりました。ほかにも「見附の子どもの本」「読書クラブ」等、見附ならではの活動の紹介もありました。最後に「なぜ本を読ませたいのか、読書の先に何があるのか、それが分かれば子どもたちはもっと読むのではないか。」という言葉が心に残りました。

後半は、グループ討議でした。短い時間ではありましたが、見附小学校の実践から学んだり、自校の取組について語りあったりして、活発な意見交換が行われました。多かった意見は、

- ・ボランティアについて…読み聞かせだけでなく環境整備ボランティアがほしい。
- ・本のリスト100冊（十日町の100冊）を選定してほしい。
- ・「家読」は親の負担が少ない方法を考えたい。
- ・図書委員会を活用したいが、時間がない。（委員会活動の時間設定が少ない。）…でした。

最後に書いていただいた「振り返りアンケート」では、講話もグループ討議も「良かった」がほとんどでした。参加いただいた先生方、ご協力ありがとうございました。以下に感想を紹介します。

- ・見附小の実践を聞き、どこも多忙感のある中で図書室を運営していることが分かった。その中で、いかに持続的に運営していけるかという観点から、地域・保護者との連携をしていきたいと感じた。
- ・中学校での読書活動の推進には課題が多く、各校の担当者も色々な悩みを抱えていることが分かった。学習、部活との両立の中で、本を読ませるためには、既存の活動を生かし、今行っている朝読を質的に改善していく必要があると感じた。
- ・～朝読書も満足にできないときもある。また、メディアを優先する生徒も増え、読書に親しむことが難しい状況もある。

ほかに、開催時期（学期末で忙しい）、討議の内容（同じ話になってしまう）等の意見もありました。来年度については、図書委員会サミットは夏休み（7月末）、担当者研修会は11月29日（金）を考えています。